

2007年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年6月12日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子<以7名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：飯塚 睦、渡辺美恵<以上2名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、今林朝香(コーディネーター)
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(5月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(6月)
資料 4：帰宅困難者対応訓練提案説明会資料
資料 5：2007年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター事業実施の工夫、見直し等
資料 7：ボランティア・市民活動センターニュース(仮称)発行(案)
資料 8：ボランティア・市民活動センターニュースタイトル等(案)
資料 9：第2回軒下ふれあいバザー収支計算書
配布済み資料：西東京ボランティア・市民活動センターがめざすもの
配布済み資料：西東京ボランティア・市民活動センターを取り巻く状況
配布済み資料：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の具体的取り組み
追加資料：社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 平成18年度事業報告及び決算報告書

委員長：6月の運営委員会を始める。事務局から報告等あるか。

事務局：職員の実父が亡くなり、ご遺族の意思で密葬という形で葬儀が執り行われた。その職員は本日欠席させていただいているので了承願いたい。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

5月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき5月期に行われた主な事業についての業務報告が行われた。

委員：都筑区市民活動センター職員の視察はどのような経緯で行われたのか。

委員長：私が都筑区民活動センターの依頼で講座の講師を受けたことにより、西東京ボランティア・市民活動センターの視察の話になった。

委員：教育委員会と職場体験の打ち合わせを行っているがどうだったのか。

事務局：教育委員会から相談があったもので、中学校で生徒達が職業体験のできる企業等を探している。そこで、ボランティア・市民活動センターに紹介して欲しいという内容だった。

委員長：企業では職業体験を受け入れているのか。

委員：当会社にはあまり話はない。どんどん話がきてほしいと思っているが、残念ながら市内の中学校からはあまり話しはない。むしろ市外からの職業体験のほうが多いのが現状だ。

- 委員長：以前は、個人で職業体験先を探して個人で対応する形だったが、これからは学校が一括して職業体験先を探すことになったようだ。
- 委員：都立高校での奉仕活動の打ち合わせも行っているようだが、どのような内容だったのか。
- 事務局：市内の都立高校が独自に奉仕活動先をそれぞれの施設と交渉したようだが、その際に当センターが行う夏！体験ボランティアとの関係がわからないとの問い合わせが施設からあり、急遽学校に状況確認を兼ねて打ち合わせを行った。その学校では、奉仕活動の内容がよく考えられており、内容としては問題なかったが、活動先への説明が不十分だったようだ。
- 委員：都立拝島高校では認知症の問題に取り組んでおり、私が話をしに行くことになっている。また、環境問題にも取り組んでいる。地域清掃を継続的に行いレポートにまとめるようだ。西東京市にある都立高校にも、このような活動を勧めてはどうか。

他に質問、意見なく、5月期の業務報告を終了する。

5月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき5月期のコーディネート状況の報告が行われた。

質問、意見なく、5月期のコーディネート状況の報告を終了する。

6月の業務予定

委員長：続いて、6月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より、資料3に基づき6月期の業務予定についての説明がある。

委員長：軒下ふれあいバザーはどうだったか。

事務局：午前中は雨が降っていたので、午前10時のスタート時には前回実施した時よりお客さんは少なかった。午後4時近くになってから人も多くなった。各参加団体の売り上げの状況は把握していない。

委員：店内の2階からバザー風景を見ると黄色い帽子をかぶって楽しそうな雰囲気だった。黄色い帽子が目立っていた。

事務局：天候が雨だったため、お客さんがあまり来なく、バザー終了間際に売り上げ状況を各団体に尋ねたところ、どの団体も前回より売り上げが少ないとのことだった。そこで、運営協力金を各団体から1,500円ずつ集めることにしていたが、やむなく1,000円とした。

他に質問、意見なく、以上をもって6月期の業務予定の説明を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会（以下、「災害専門委員会」と表記）報告

事務局より、5月30日に東京災害ボランティアネットワークが開催した帰宅困難者対応訓練提案説明会の資料をもとに、説明会での内容についての報告が行われる。また、災害まちあるきワークショップを7月29日（日）に開催すること、および西東京市防災課職員が災害専門委員会委員に就任していただけることになったことについて報告がある。

委員長：昨年4月に行ったまちあるきワークショップに参加していない委員は、都合がつけばぜひ参加してほしい。

他に質問、意見なく以上をもって災害専門委員会の報告を終了する。

(2).理事会報告

委員長（兼担当理事）から、5月30日に開催された西東京市社会福祉協議会理事会の報告が行われた。

質問、意見なく、5月30日に開催された理事会の報告を終了する。

2. 学 習 会

特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会の活動について

【委員長からの話】

国際協力の活動について話をしたい。手工芸品を販売することによって、生活を支える活動をしている。シャプラニールは主にバングラデシュで活動しているが、睡蓮の家という意味。他にもNGO団体は多くあるが、その中で市民によるということが大きな特徴となっている。NGOの多くは、支援をしているのは市民だが、現地での活動はプロが行っている。シャプラニールは現地の市民自らが支援活動も行うことにしている。共生ということを大切にしている。そのことにより互いに共通の課題を考えていこうとしている。バングラデシュ、インド、ネパールで活動を続けている。これらの国では経済成長の恩恵を受けない人がたくさんいて、コミュニティから取り残されている人がいるために、そういった人たちを支援している。例えば離婚した女性、夫をなくした女性、路上生活をしている子どもなどを支援している。

また、緊急救援に取り組んだり、知的貢献として人材を派遣している。フェアトレードは、ただ販売をするのではなく、市民が自分達で販売するという形をとっている。全国にサポーターズクラブを組織して支援をしている。

現地では、できるだけ日本人の出番を減らすように心がけている。自分たちの生活は自分たちでよくするという考え方で支援している。自分たちの役割とは何かということがずっと課題になっている。ただトイレをつくり井戸を掘るということではなく、それらを現地の人たちに購入してもらっている。なぜそのことが必要なのか、価値を見出してもらうために、文字を教えたりしながら理解をしてもらうようにしている。こういったことを通じて現地の人たちの課題解決能力を高めるようにしている。

現地の事務所を現地の人たちによって独立してもらった。NPOをつくる主役はすべて現地の人で、シャプラニールの日本人スタッフは側面的なサポートに徹している。過去には村人から不信感を抱かれたり、失敗を重ねてきた。それが今活きており、徹底的に市民参加で進めている。

シャプラニールの代表は6年間継続すると続けられない。そのようなやり方で若返りを図っている。また、特定の財源に依存しないようにしている。自己財源比率を全収入の75%以下にしないようにしている。ODAにより補助金、委託金はもらえるが、それに頼っていて市民の団体なのかという疑問がある。私たちは情報公開を徹底的に行う。それを組織の原則としている。フェアトレードは、中間搾取しないできちんと現地の人に賃金が支払われ、現地の人たちの生活向上が図られるようにしている。自己財源の確保と同時に、現地の人たちのことを考え行っている。自己財源を確保するために皆さんがいなくなった物を集めてお金に変え、有効に活用している。こういったことを通じて国際協力を行っている。

【質問・意見交換】

委員：アンコールワットに行ってきたが、誰かが何かをしなければいけないということがよくわかる。しかし、現地の人たちからはそのことの緊張感が伝わってこない。支援の仕方を間違えるとそういうことになるのではないかと思う。

委員：事務局長という立場はどのような役割があるのか。

委員長：NGOの場合、事務局長兼理事という立場の人が多いが、経営者側にも入り、業務執行の統括を行い、予算管理を行うという立場。事務局長という肩書きをもって、企業への説明や営業的なことを行う。アドボカシーやロビイングをする時に委員として加わるなどを行っている。

委員：シャプラニールの活動に携わるきっかけは何だったのか。

委員長：中国で天安門事件に遭遇したことにより、世界の中の自分を確認するためにシャプラニールで働くようになった。

委員長：それではこのへんで学習会を終了して審議事項にうつりたい。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：何か修正等あるか。

修正、削除、追加等の意見なく、第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 事業の見直しについて

事務局より、資料6に基づき、現段階での事業の見直しに関する事務局の考え方の説明がある。

委員長：スタッフ的な人材を確保するという点について何か意見はあるか。

委員：今のボランティア登録者の中でそのような人はいるか。見直しはどうか。

事務局：現在登録している人に対して、ボランティア・市民活動センターのボランティアスタッフとしてお願いすることは難しいと思う。しかし、イベントや個別の業務の中でお願いをすることは今もすでに行っている。

委員長：日常業務の中で関わってもらう人、専門的な仕事に関わってもらう人など、段階的に考えてはどうか。業務の中のどの部分をやってもらうかということを段階的に考えることが必要。

委員：頼まれたほうもどこまでやればよいのかわからなかったり、やる気はあるけれども人物的に問題があったときに断れないなどの問題が出てくるので、少し課題を整理してからのほうがよいのではないか。

委員長：事業の中で、講座の開催数が多いのではないか。誰をターゲットに講座を行うのか、どの層に活動してもらいたいのかを考えたほうがよい。

事務局：ボランティア・市民活動センターに入ってくるニーズは福祉関係に偏っている。そういう中で他の分野に関わる取り組みをしていく余裕がないのが現状だ。

委員長：市民活動者を増やすということもニーズではないか。また、シンポジウムなどで問題提起をしていくということも必要だと思う。

委員：企業の懇談会開催が提案されているが、企業において社会貢献活動を本業と平行してやっていくということはどの企業にもあると思う。企業同士につながりがあるかということそうではないと思う。したがって、最初は社会貢献というテーマで懇談会を開催すれば企業は参加するのではないだろうか。

委員：三菱東京UFJ銀行は、認知症の問題に取り組んでいるので、いろいろな企業に働きかけてはどうか。

委員長：ホームページに企業との協働事例を掲載してはどうだろうか。

委員：自治会再生プロジェクトとあるが、西東京市内の自治会名簿等の情報をもっているのか。

事務局：もっていない。

委員：自治会に関する情報がないのであれば、調査を行うことから始める必要があるのではないか。

委員長：市民活動団体連絡会の組織化は西東京市にはNPO法人連絡会があるので、市民活動団体連絡会を組織するにあたってはやり方に気をつけたほうがよい。いろいろな意見が出たが、今日の意見を踏まえ、次回運営委員会で継続して検討したい。

以上の意見が出され、次回継続して検討することとした。

(3). ボランティア・センターニュース（仮称）の発行について

資料7、8に基づき、ボランティア・センターニュース（仮称）の主に各記事のタイトルについて事務局の考え方を説明し、提案した。

- 委員：メインタイトルが笑顔に会いたいとなっているが、誰の笑顔に会いたいのか。
事務局：活動している人であったり、私たちボランティア・市民活動センターの職員だったり…。
委員：自分も笑顔になりたいからこのようなタイトルになったのだろうか。
委員：タイトルを「笑顔」とするのであれば、2、3面も笑顔に関連したタイトルにしたほうがよい。
委員：タイトルの案として「ひらけごま ボラセン」、「笑顔アラカルト」などではどうか。
委員長：もっと奇抜なタイトルがよい。「わっはっは」とか。1面では掲載する写真を工夫したほうがよい。写真がなければイラストでもよいのではないか。2、3面では若い人が行っている活動を取り上げたほうがよい。
委員：ボランティア・市民活動センターの手伝いをしている人を載せてもよいのではないか。職員による投票が入らなかったタイトルのほうが面白いのではないか。
委員：2、3面に掲載する活動は、内容で判断したほうがよいのではないか。分野にこだわらずに決めたほうがよいと思う。
委員長：今まで出された意見をもとに事務局で考え、発行してほしい。

ボランティア・センターニュース（仮称）の発行については、以上をもって審議を終了し、事務局が発行作業を進めることを承認した。

以上をもって、2007年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。